

部門	平成27年度活動目標	平成27年度活動計画	平成27年度活動実績	平成28年度活動目標	平成28年度活動計画
キャリアプロモーション部門		<ul style="list-style-type: none"> 部門の全体会議は2～3か月毎に開催し、各ユニットの活動内容の共有・検討を行う。 具体的な活動は平成27年度に検討し、ユニット毎に展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 部門会議は4回開催し、基礎教育ユニット、継続教育ユニットの活動内容の共有と検討を実施した。 部門のリーサーチマインドを育成教育(理念)を具体化した。 	<ul style="list-style-type: none"> リーサーチマインドを育成するプログラムを作成する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 基礎教育ユニット: 看護学生のリーサーチマインドの基礎形成 	<ul style="list-style-type: none"> 初期および後期インターンシップへの参加、臨床実習教育を充実させる。臨床看護の実践を長学対は体験し、ケアの妥当性やエビデンスに疑問をもち、倫理的思考法、学問的なディスカッション、論文抄読、事例検討のプロセスを学ぶ。評価はインターンシップ終了後の学生の記録で行う。 研究室で、オープンラボ、勉強会などに参加し、プレゼンテーションと討議を見学する。 学会参加、短期海外留学制度を利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> リーサーチマインドを育成教育理念に合ったインターンシップを具体化する課題を見出した。 東北大学病院看護部の看護研究発表会及び看護の質向上発表会への参加を促し、臨床看護研究に対する興味を持つ機会となった。 TOMODACHIプロジェクトへの参加を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎教育ユニット: 看護学生のリーサーチマインドの基礎を形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> リーサーチマインドを育成教育理念に合った初期および後期インターンシップの実施方法等を検討し、実施する。評価方法についても検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> 継続教育ユニット: 臨床看護のリーサーチマインドの育成 	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討のプロセスで、その事例への看護の妥当性を深く突き詰め、臨床研究に発展させる。背景・目的・方法・結果・考察によって事例検討の資料を作成し、検討する。論文を執筆する。論文をクリエーター。その事例の問題を解決する看護の仮説をたて、研究課題にする。臨床研究を行い、看護のエビデンスを作り出す。 医学系研究科保健学専攻看護コースを学ぶ。 学会に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「次世代型ケアを創出できる臨床看護のリーサーチマインドを育成教育プログラムの開発」の準備調査の準備期間とし、基礎教育ユニットおよび、継続教育ユニットが協働し、教育プログラムに必要な要素を見出した。 「東北大学病院看護部の看護研究発表会及び看護の質向上発表会」への参加を促し、臨床看護研究に対する興味を持つ機会となった。 TOMODACHIプロジェクトへの参加を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続教育ユニット: 臨床看護のリーサーチマインドを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「次世代型ケアを創出できる臨床看護のリーサーチマインドを育成教育プログラムの開発」の準備調査「看護研究が臨床研究を行うための教育・環境ニーズに関する調査」を実施する。その結果を基にプログラムを作成する。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域教育ユニット: 地域密着型病院看護および訪問看護師への支援システムの構築(検討) 				
ケアリサーチ部門	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度活動目標 1. TUSCOOプロジェクトによる新しいケアの創出(ケアバージョンユニット) ・TUSCOOプロジェクトの募集・審査・実施支援・進捗管理 ・平成27年度中にTUSCOOプロジェクトが倫理委員会の承認を受けスタート ・平成28年度末までに1つ以上のTUSCOOプロジェクトが完了 	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度活動計画 <ケアバージョンユニット> ・TUSCOOプロジェクトの募集を開始する。 ・TUSCOOプロジェクトの研究実施を支援する。 ・TUSCOOプロジェクトの進捗管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度活動実績 <ケアバージョンユニット> 目標を看護と看護学専攻の共同研究の推進に変更し、看護部と看護学専攻の共同研究をTUSCOOプロジェクト研究として登録することとした。本年度の具体的な成果は以下である。 ・TUSCOOプロジェクト研究の登録要件を確定し、登録を開始した。登録件数は7件であった(平成28年2月末現在)。 ・TUSCOOプロジェクト研究について大学病院看護部向け説明会を開催し、また師長会、専門看護師会、保健学科の教員の会議や集まり、電子メールなどを利用し周知した。 ・東北大学病院臨床推進センター(CRIETO)と打ち合わせを行い、今後の連携の方針について討議した。 ・部門から看護部1名、看護学専攻1名がCRIETOの運営委員会に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度活動目標 1. TUSCOOプロジェクト研究による看護部と看護学専攻の登録数の増加 共同研究の推進(ケアバージョンユニット) 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度活動計画 ・TUSCOOプロジェクト研究の登録の呼びかけを行う。 ・TUSCOOプロジェクト研究の進捗を管理する。 ・臨床ナースリサーチ支援ユニットと協力し、共同研究を増加させる。 ・臨床研究推進センター(CRIETO)との協力体制を確立する。 ・CRIETO運営会議に出席する。
	<ul style="list-style-type: none"> 2. 臨床看護研究の強化・推進のための支援(臨床ナースリサーチ支援ユニット) 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床看護研究に対する病院倫理委員会へ提出するプロトコル作成支援 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床ナースリサーチ支援ユニット 臨床ナースリサーチ支援ユニットでは、看護部倫理委員会を8月に廃止し、病院倫理委員会へ移行した。これに伴い、臨床看護研究の支援を強化した。 ・CRIETOの協力のもと病院倫理委員会への移行に伴う説明会を開催した。 ・CRIETOと共同し、倫理委員会提出に関する標準業務手順書の看護研究バージョン(テンプレート等)を作成し、ネット上に公開した。 (http://www.crieto.hosp.tohoku.ac.jp/public/ninri_shishin.html) ・看護部看護研究計画書検討会に委員を派遣し、研究計画書作成および倫理委員会への提出支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 2. 臨床看護研究による専門学や学術論文で発表ができる研究の実施を支援する(臨床ナースリサーチ支援ユニット) 	<ul style="list-style-type: none"> 看護研究計画書検討会に委員を派遣し、研究計画書作成および倫理委員会への提出の支援を行う。 ・必要であればCRIETOと共同し、倫理委員会提出に関する標準業務手順書の看護研究バージョン(テンプレート等)の修正を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> 臨床看護研究に対する専門学会への発表ができる水準の研究の実施支援 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床ナースリサーチ支援ユニットが行う研究相談の体制を確立する。 看護学専攻教員との相談・連携体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度から継続して臨床看護研究相談であるスキットカフェを開催した。相談件数は13件、のべ35回程度であった。 ・看護学専攻教員への相談・共同研究支援を盛り込んだ新しい臨床看護研究相談・支援体制の運用マニュアルである「TUSCOO臨床看護相談・支援」について(作成済み、運用を開始した。これによって看護学専攻教員との連携体制が確立した。TUSCOO臨床看護相談・支援への申請は1件であった(3月20日現在)。 	<ul style="list-style-type: none"> 院内の看護研究相談、および看護学専攻教員との連携を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床看護研究が気軽に看護研究の相談ができる窓口としてスキットカフェを開催する。 ・臨床看護研究相談・支援体制について周知し、看護学専攻教員との連携の窓口となる。 ・相談・支援を実施中の研究の進捗を管理する。 ・必要であれば看護研究の手引きを改訂する。 ・臨床看護研究の研究能力向上のための情報発信を行う。 ・臨床看護研究に対する論文投稿の支援 ・臨床看護研究に対する科学的研究費取得の促進
	<ul style="list-style-type: none"> 看護部の研究業績のリストアップを行う。 看護部の人的リソースの把握を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護部の研究業績のリストアップを行う。 人的リソースの把握は必要時に行うこととし、H27年度は行わなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護部の「看護研究の手引き」を主に倫理委員会への提出に関連する点を中心に改訂した。 ・臨床看護研究の研究能力向上のための情報発信として看護研究スキルアップセミナー看護研究をスムーズに！文献検索基礎編を開催した。 ・論文投稿の支援は特に養成もくろわなかった。 ・科学研究費取得の支援は行わなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護部の看護研究の手引きを改訂する。 ・臨床看護研究の研究能力向上のための情報発信を行う。 ・臨床看護研究に対する論文投稿の支援 ・臨床看護研究に対する科学的研究費取得の促進 ・看護部の研究業績のリストアップを行う。 ・必要であれば看護研究の手引きを改訂する。 ・臨床看護研究の研究能力向上のための情報発信を行う。 ・臨床看護研究に対する論文投稿の支援 ・臨床看護研究に対する科学的研究費取得の促進 ・看護部の研究業績のリストアップを行う。 ・必要であれば看護研究の人的リソースの把握を行う。 	
プラクティス部門	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度活動目標 1. 看護実践能力向上のための支援 看護の質向上発表会、医療の連携に関する活動報告会の課題への支援 ケアリサーチ部門で得られたエビデンスの臨床での実践 	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度活動計画 部門会議は1～2か月毎に開催する。 演習募集の段階で、「プラクティス部門が支援する」ということや「発表会後に検討会を開催する」とことお知らせする。 ケアリサーチ部門で得られたエビデンスの臨床での実践 	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度活動実績 部門会議を8回開催した。 <看護実践力向上ユニット> 平成27年度院内看護研究発表会・看護の質向上発表会に、抄録を事前に確認のうえ5回参加し、計20題の演習の発表を聞いた。 実施していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度活動目標 部門会議の定期開催 部門会議は1～2か月毎に開催する。 平成28年度<臨床看護実践の向上と開発ユニット>の活動とする。 <看護実践力向上ユニット> ○エビデンスを現場に普及させ、看護実践能力の強化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度活動計画 部門会議は1～2か月毎に開催する。 ・各部署で実践しているケアでエビデンスがあると思われるケアを院内全体へ普及させる。 ・学会等で報告されているエビデンスのあるケアを院内全体へ普及させる。 ●評価の指標 ・院内全体へ普及を図ったケアの数 ・平成28年度看護の質向上発表会、医療の質向上に関する活動報告会の演習の課題の発表
	<ul style="list-style-type: none"> 2. イノベーション看護モデルの開発と実践 臨床研究推進センター等との連携によるシーズの発表と共同開発 	<ul style="list-style-type: none"> <看護実践力向上ユニット> ・平成27年度看護の質向上発表会、医療の質向上に関する活動報告会の演習の中から、ケアリサーチ部門(研究ベース)やキャリアプロモーション部門(教育ベース)、看護用具の開発につながる可能性のある課題をピックアップする。 	<ul style="list-style-type: none"> <看護実践力向上ユニット> 抄録を事前に確認のうえ5回参加し、計20題の演習の発表を聞いた。発表会毎にプラクティス部門内で新規シーズに発展する可能性のある演習があるか検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> <臨床看護実践の向上と開発ユニット> ○看護の質向上発表会、医療の質向上に関する活動報告会の課題の発表 	<ul style="list-style-type: none"> 抄録を事前に確認のうえ発表会に参加し、新規シーズにつながる可能性のある部署と後日個別に検討会を行う。検討の結果によっては、CRIETO/バイオデザイン部門、ケアリサーチ部門、キャリアプロモーション部門に相談・連携を図っていく。 ●評価の指標 ・発案したシーズの数 ・他部門と連携した数
	<ul style="list-style-type: none"> 企業と連携した看護関連用品の開発支援 共同開発の成果を東北大学ブランドとして世界へ発信 	<ul style="list-style-type: none"> 企業と連携した看護関連用品開発のシーズがある場合、CRIETOのバイオデザイン部門に相談する。 共同開発できたら、計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> シーズ検討会の結果を踏まえて、計捨て商品開発の可能性があるのでないかと、CRIETO/バイオデザイン部門に相談した。アイデアを企業に伝え、知財化・事業化に資する点があるかについて可能性があると考えられたが、検討の結果、市場サイズがはつきりしない等問題点が多いため、今回は困難であるという結論となった。 ・CRIETO/バイオデザイン部門から、今後も現場の看護師からニーズを聞き取りたいという意向が示された。必要時連携を図っていくこととした。 		
評価部門	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度活動目標 1. 事業の目標管理: 部門ごと・適切な目標設定と評価方法、自律的なモニタリングとフィードバック ・適切な目標設定と評価方法、自律的なモニタリングと方向修正 ・成果・評価の報告 ・事業全体の総括的評価(自己評価、外部評価) 2. 事業成果の発信 ・TUSCOO web siteの構築と管理・更新 ・事業の取組と成果の発信(web、印刷物等) <その他> 1. 広報・渉外に関する事項 	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度活動計画 部門会議は年間3回程度開催する。 <事業の評価> 当面は自己評価のみを行う。 ・部門ごとに、年度内目標を提出してもらう。 ・部門ごとに、数値および質的評価指標を定めもらう。 ・部門ごとに、1月末までに年度内の成果と評価、次年度目標、活動計画を提出してもらう。 ・評価結果をフィードバックし、必要に応じて助言等を提示する。 ・総括評価会議(センター長、副センター長、各部門長、評価部門員)を行い、事業全体の評価を総括する。 1. 今年度前半(9月末まで)に、web siteを完成させる。 ・site構成を検討する。 ・センター長あいさつ、組織図、各部門長あいさつ、各部門の理念・目標・年度活動計画について取材、情報収集する。 2. 年度末までに年度内の成果をwebで公表する。 ・各部門の成果、総括評価を収集する。 ・成果・評価をweb上で公表する。 3. 内外からの問い合わせに対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度活動実績 部門会議を2回開催した。 <事業の評価> 自己評価のみを行った。 ・部門ごとの年度内目標および評価指標を集約した。 ・総括評価会議は実施できず、評価結果のフィードバックは次年度に持ち越しとなった。(平成28年4月8日(金)開催の部門会議および平成28年4月19日(火)開催の運営委員会で平成27年度の成果報告および次年度目標について評価検討しフィードバックを行う) ・webに掲載する情報収集、site構成の検討を行い、9月1日にweb siteを公開した。12月にsite構成を再検討し更新を行った。 ・ケアリサーチ部門からの掲載依頼に対応し更新を行った。 ・平成27年度の成果・評価は平成28年6月にwebで公表した。 ・外部からの問い合わせはなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度活動目標 <事業の目標管理> 部門ごと・適切な目標設定と評価方法、自律的なモニタリングと方向修正 ・成果・評価の報告 ・事業全体の総括的評価(自己評価、外部評価) <事業成果の発信> ・TUSCOO web siteの管理・更新 1. 昨年度の活動成果・評価をweb上で公開する。 2. 各部門からのweb掲載依頼に対応する。 次年度6月末までに年度内の成果を各部門の成果、総括評価を収集しwebで公表する。 4. 内外からの問い合わせに対応する。 <その他> 1. 広報・渉外に関する事項 2. グループウェア内フォルダを用いた会議等資料の共有・管理 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度活動計画 部門会議は年間3回程度開催する。 <事業の評価> ・部門ごとに、年度内目標を提出してもらう。 ・部門ごとに、数値および質的評価指標を定めもらう。 ・部門ごとに、3月末までに年度内の成果と評価、次年度目標、活動計画を提出してもらう。 ・評価結果をフィードバックし、必要に応じて助言等を提示する。 ・運営会議で各部門の評価を報告し、事業全体の総括的評価を行う。 1. 昨年度の活動成果・評価をweb上で公開する。 2. 各部門からのweb掲載依頼に対応する。 次年度6月末までに年度内の成果を各部門の成果、総括評価を収集しwebで公表する。 4. 内外からの問い合わせに対応する。 1. 広報・渉外に関する事項 2. グループウェア内フォルダを用いた会議等資料の共有・管理